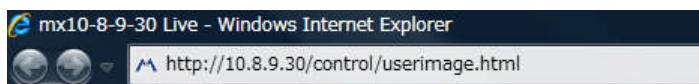


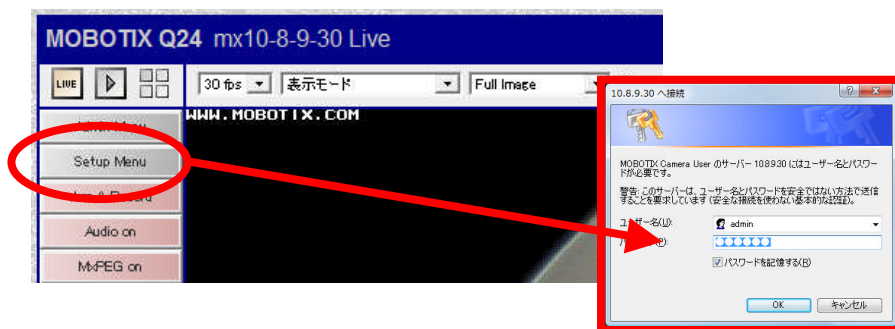
MOBOTIX ビデオモーション検知

1. ブラウザから設定したいカメラにアクセスします。

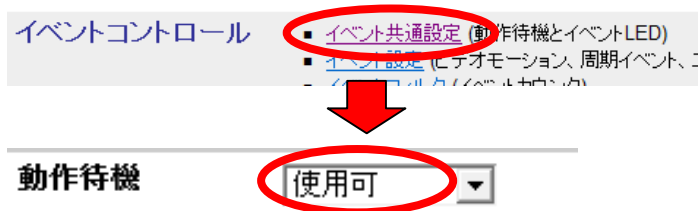


2. カメラの「**Setup Menu**」をクリックします。ユーザ名とパスワードを問われた場合は入力します。

初期ユーザ名 : admin
初期パスワード : meinsm



3. まず、Setup Menu の「**イベント共通設定**」を開き、動作待機が「**使用可**」に設定します。



4. 次に **SetupMenu** の「**イベント設定**」で、ビデオモーションの設定を行います。
ビデオモーション領域(**VM**)の右チェックボックスに、チェックマークを入れます。



5. 次に、ビデオモーションをかけるエリア領域を入力します。
一度ライブ画像に戻り、エリア領域をかけたい左上部分に「Shift キー」を押しながら **1 クリック** します。すると、黄色いポイントが表示されます。



6. 次にエリア領域をかけたい右下部分に **1 クリックのみ** します。すると黄色い長方形の枠が表示されます。



7. この状態で「イベント設定」ページに戻り、ビデオモーションの定義下にある **矩形領域の追加** をクリックします。すると、座標軸が自動的に入力されます。

ビデオモーション領域 (VM)

```
0,040,360,200,200,s=20,a=25  
0,758,341,49,94,s=20,a=25
```

ビデオモーション使用可:
モーション検知はデジタル画像解析による
ものです。

ビデオモーションの定義 (VM):
[[!lens, x, y, width, height [, "a"="min. area(%)]
[, "am"="max. area(%)] [, "s"="sensitivity]
lens: 0=right, 1=left
min. area: [%] 0..99, default: 25
max. area: [%] 0..99, default: not used
sensitivity: [%] 0..99
Add an exclamation mark (!) at the
beginning of a definition line to declare a
"reference window", which is used to avoid
false video motion alarms.
Note that you can use special [variables](#)
to fine-tune the video motion definitions for
difficult situations. For details refer to the
[Video Motion](#) help page.

Note: All user-defined coordinates are relative
to the whole sensor. The origin corresponds to
the lower left corner, the point 1279,959 to
the upper right.

矩形領域の追加

8. ビデオモーションの感度、閾値を調整します。

座標軸は左から[レンズ,X軸,Y軸,幅,高,感度,しきい値]になります。

0,758,341,49,94,s=20,a=25

感度:0に近くなるにつれ反応が良くなり、99に近づくにつれ反応が悪くなります。

例えば白から黒とはっきりとした変化が生じない限りピクセルの色変化としない場合は、数値を高くします。逆に白から灰色でも反応させたい場合は、数値を低くします。

S : 0~99 (初期設定:20)

しきい値:エリア領域内のしきい値(%)を設定し、このしきい値以上のピクセルの色変化が生じた場合、初めてビデオモーション検知が反応します。

a : 0~99 (初期設定:25) →最低しきい値

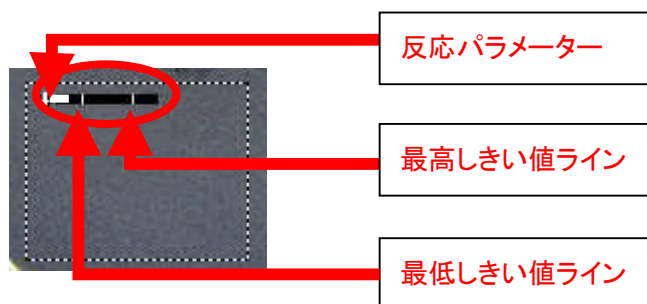
am : 0~99 (初期設定:なし) →最高しきい値

*最高しきい値を入力すると、エリア領域内の x%から y%の間の変化率のビデオモーションを反応させることが可能です。am(最高しきい値)は初期設定では表示されません。都度入力して下さい。

例: 0,758,341,49,94,s=20,a=25,am=75

(25%以上 75%以下のピクセル色変化の場合、ビデオモーションがトリガされます。)

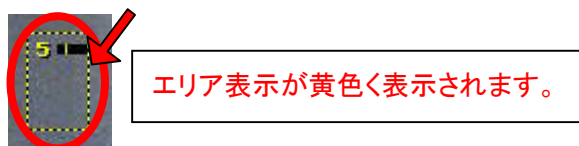
*エリアの上部のパラメーターで最低しきい値と最高しきい値が表示され、反応パラメーターでは現在の反応率を確認できます。



9. また、座標軸の先頭に「!」を入力することで、「reference window(リファレンスウィンドウ)」として設定することが可能です。リファレンスエリアとは、そのエリアが反応した場合に、ビデオモーション検知の反応を無効にすることができます。

ただし、リファレンスウィンドウが反応し続けた場合、ビデオモーションは無効になり続けるため注意が必要です。

例: !0,833,400,24,57,s=20,a=25



10. 削除したいエリア領域は座標を選択し、「delete」で1ライン削除します。



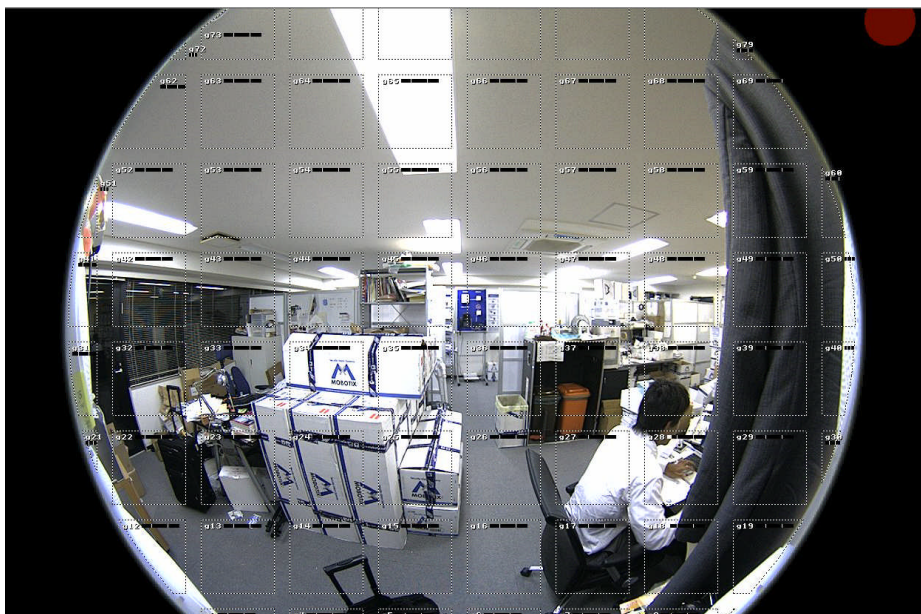
11. ビデオモーションのエリア領域を、画面全体に設定したい場合、全体を上記のような設定で行うと、被写体に対して反応率が低すぎて反応しないことが想定されます。また、最低しきい値を下げることにより、誤反応も想定されます。

そこで、自動生成ウィンドウを使用します。座標軸内に、

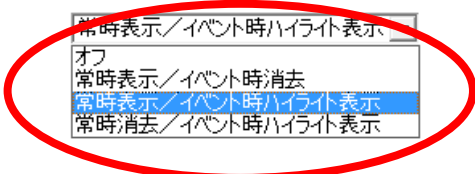
`$generate=0,100,100,20,20,25,25,70,70`

(左から[レンズ,幅,高,水平間隔,垂直間隔,最低しきい値左,最低しきい値右,最高しきい値左,最高しきい値右,最高しきい値左]*数値は自由に変更可能)

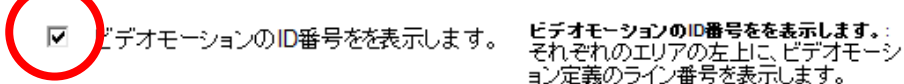
と入力すると、画面全体に整列してビデオモーションが自動生成されます。



12. 次にビデオモーションエリアの表示の有無をビデオモーションスタイルから選択します。

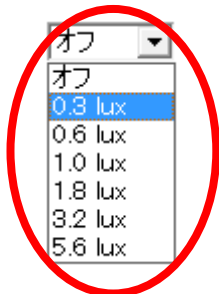


13. ビデオモーションエリアのID番号を表示する場合、チェックマークを入れます。



14. 暗闇時におけるビデオモーション検知の有無を選択します。

選択した照度(lux)以下になった場合、ビデオモーション検知は動作せず、ノイズによる誤検知を防ぎます。

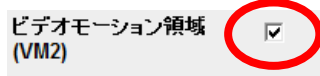


15. リファレンスエリアを設定しそのエリアが反応した場合、その後のビデオモーション無効時間を入力します。[0~3000m 秒]



Video Motion Suppression Time:
Disable motion detection for this duration
[0..30000 ms] after a reference window has
triggered.
工場出荷時設定値: 0 (disables motion
detection in current image only).

16. ビデオモーション検知 2 も使用したい場合は、ビデオモーション領域(VM2)にチェックマークを入れ、上記と同様設定します。



ビデオモーション使用可:
モーション検知はデジタル画像解析による
ものです。

17. 最後にページ下部の **設定** をクリックして、画面がぱっと切り替わったら **閉じる** をクリックして、ポップアップページの「OK」でフラッシュメモリに保存し終了です。

